

課題番号 : 29指6
研究課題名 : ベトナムにおける生活習慣病の保健システムの強化
主任研究者名 : 松下 由実
分担研究者名 : 永田 尚義

キーワード : 肥満、生活習慣病、国際保健、胃癌、保健システム

<目的>

WHO の提案するモニタリング・フレームワークをベトナムで使用可能なものに改訂し、モニタリングを行う際に使用する保健システムを作成する。ベトナムへ導入する方法を検討し実施を試み、その実施可能性について分析・検討することを目的とする。

<研究成果>

計画どおり、以下のように研究実施体制の整備・スタッフの指導を進めてきている。

1. 国内・国外で、生活習慣病や疫学・統計の専門家、国際医療協力の専門家と協力して今回の臨床研究計画を立案した。
2. 研究代表者（松下）がベトナムへ出張し、今回の研究に関し、研究実施方法、検体の取り扱い、お互いの責任範囲などを現地の研究施設・研究者と検討し確認した。
3. 地域保健プログラム・健診セットを作成し、その使用方法の教育マニュアルを作成した。そして、研究代表者（松下）がベトナムにて現地スタッフに指導を行い、研究が遂行できるか検討し、本研究の実行可能性を確認した。
4. 疾病が発見された場合には、地域保健センターで指導を行い、さらに重篤な場合には病院へ送る仕組みを作った。
5. 研究で使用する機器（ピロリ菌の呼気を用いた検査機器）のトレーニングと調査実施の準備・打ち合わせのため、ベトナムスタッフが日本へ研修にきた。
6. 国立国際医療研究センターおよびベトナムの施設で倫理審査に申請した。

Subject No.: 29-6

Title: Strengthening of health system for lifestyle-related diseases in Vietnam.

Researchers: Yumi Matsushita, Naoyoshi Nagata

Key words: Obesity, Lifestyle-related diseases, International health, Gastric cancer, Health system

Abstract:

【1】 Objectives:

We will revise the monitoring framework proposed by WHO to one that can be used in Vietnam and create a health system to be used for monitoring. We seek to examine the way to introduce and implement the system to Vietnam, aiming to analyze and verify the feasibility of its implementation.

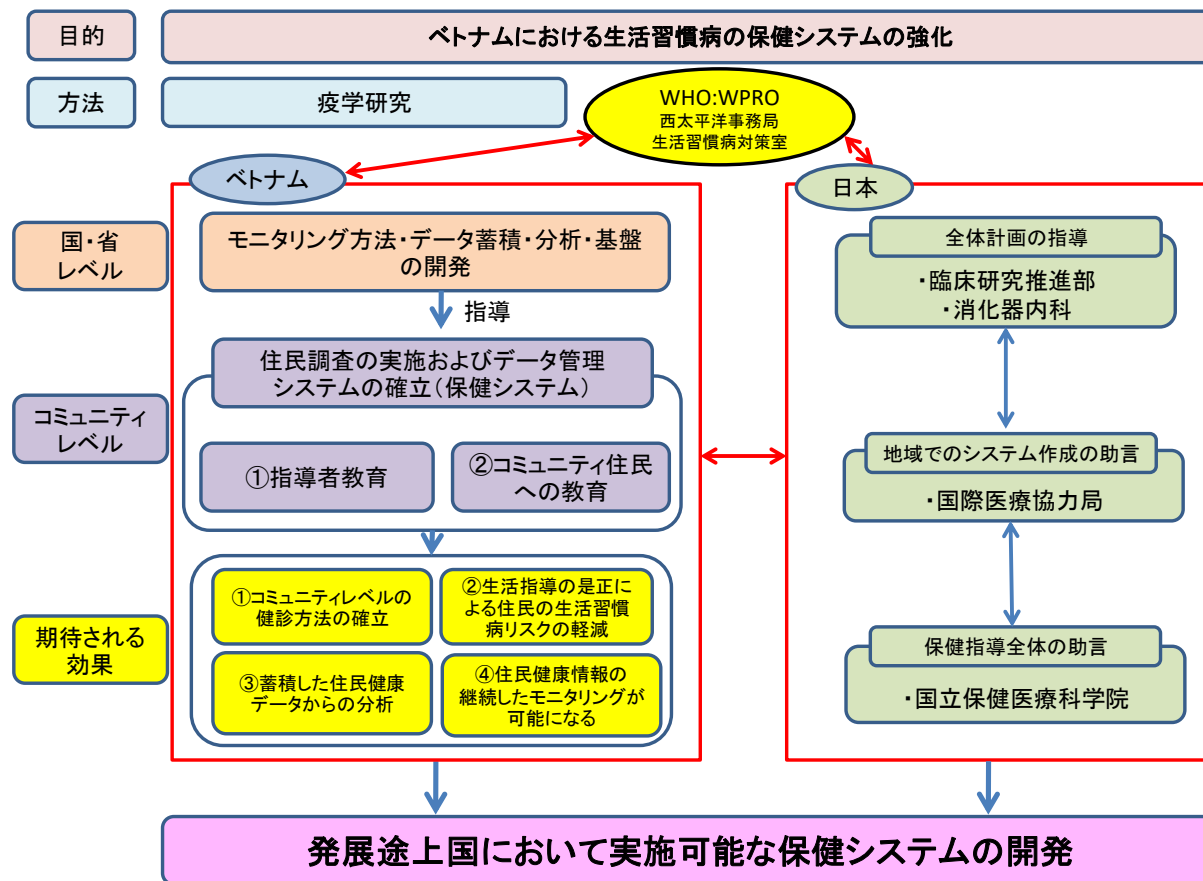
【2】 Results:

As planned, we are working on the improvement of research implementation system and education of staff as follows:

1. We cooperated with domestic and overseas experts on lifestyle-related diseases, epidemiology, statistics, and experts from international medical cooperation to design this clinical research plan.
2. Our research leader (Matsushita) traveled officially to Vietnam, examined and confirmed the method of conducting the research, the handling of the sample, and the area of each other's responsibilities with the local research facilities and researchers concerning this study.
3. We created a local health program/health checkup set and prepared an educational manual of how to use it. Then, the research leader (Matsushita) instructed the local staff in Vietnam, examined whether this research could be carried out and confirmed the feasibility of the research.
4. When diseases were found, the health guidance was given at the community health center, and in a more severe case, a system to send patients to a hospital was prepared.
5. Vietnamese staff came to Japan for the training of an equipment (testing equipment using expiration of *Helicobacter pylori*) applied in the research, and also for preparation and discussion of the study.
6. We applied for ethical review at the National Center for Global Health and Medicine and at the facilities in Vietnam.

ベトナムにおける生活習慣病の保健システムの強化 (研究代表者：松下由実)

WHO の提案するモニタリング・フレームワークをベトナムで使用可能なものに改訂し、モニタリングを行う際に使用するインターネットを介した保健システムを作成する。ベトナムへ導入する方法を検討し実施を試み、その実施可能性について分析・検討することを目的とする。



研究方法とその成果

計画どおり、以下のように研究実施体制の整備・スタッフの指導を進めてきている。

1. 国内・国外で、生活習慣病や疫学・統計の専門家、国際医療協力の専門家と協力して今回の臨床研究計画を立案した。
2. 研究代表者（松下）がベトナムへ出張し、今回の研究に関し、研究実施方法、検体の取り扱い、お互いの責任範囲などを現地の研究施設・研究者と検討し確認した。
3. インターネットを介した地域保健プログラム・健診セットを作成し、その使用方法の教育マニュアルを作成した。そして、研究代表者（松下）がベトナムにて現地スタッフに指導を行い、研究が遂行できるか検討し、本研究の実行可能性を確認した。
4. 疾病が発見された場合には、地域保健センターで指導を行い、さらに重篤な場合には病院へ送る仕組みを作った。
5. 研究で使用する機器（ピロリ菌の呼気を用いた検査機器）のトレーニングと調査実施の準備・打ち合わせのため、ベトナムスタッフが日本へ研修にきた。
6. 国立国際医療研究センターおよびベトナムの施設で倫理審査に申請した。

課題番号 : 29-6
研究課題名 : ベトナムにおける胃癌および胃癌死亡の予防を目指した検診プログラムの構築
主任研究者名 : 松下由実
分担研究者名 : 永田尚義

キーワード : 胃癌、ヘリコバクターピロリ菌、ABC 検診

研究成果 :

#ベトナムにおける胃癌リスク検診を実行するための基盤構築

具体的には、以下を行った。

- ✓ ベトナムの疾患疫学を考慮し、どの場所で、どのくらいの被験者を集めるのが妥当か、ベトナムのピロリ感染率を考慮した男女比、年齢制限などを設定し、現地のベトナム研究担当者 と相談を行った。
- ✓ 癌マーカー異常やピロリ菌の早期発見はベトナムでの死亡率を下げることに直結する可能性が高いため、食道癌、胃癌、大腸癌の癌スクリーニングの計画も立案した。
- ✓ さらに、胃癌の絶対リスクであるピロリ菌感染率を抗体法以外の呼気テストで調べることが出来るかもベトナムの状況を調べた。その理由は、ピロリ抗体法は偽陰性があることが分かっており、呼気テストが最も診断精度が高いとされているからである。一方で、呼気テストは日本の会社のためベトナムで運用するには試薬、機器が使用可能かなどの問題があった。現地の業者や日本の業者とのやり取りで、呼気テストもベトナムで検査することが可能となった。
- ✓ 全世界で有病率が高く、アジアでも多いといわれる“過敏性腸症候群（腹痛に伴う慢性便秘や慢性下痢症状）”症状を呈する患者の全数把握も目的とし、問診票を作成した。
- ✓ 生活習慣、既往歴、薬剤内服歴などの問診票を作成した。

研究実行の問題点

検査の異常値（癌マーカー異常、ピロリ抗体陽性、ABC 検診で C および D タイプ）を認めた被験者に対して、病院受診を薦める流れの構築、その受け入れ病院の確保が必要であった。主任研究者の松下が現地のスタッフと交渉し、地域の病院で内視鏡検査など精密検査を受診できる流れを構築した。最後に、現地スタッフと綿密な相談をした内容でプロトコールを作成した。

今後と期待される成果

現在、現地スタッフと決定したプロトコールを当院の倫理申請を申請中であり、その承認後に、検診を開始する。ベトナムにおける癌疫学は日本と類似しているが極めてデータが少ない。これは、大規模な検診が実施されておらず、疫学研究が実行されていないためである。本研究の ABC 検診で胃癌のリスクとされる“ピロリ菌感染症”および“萎縮性胃炎の程度”の実態が可能となれば、ベトナム人の中でどのような患者が胃癌ハイリスクなのかを同定できる。例えば、“男性なら 60 歳以上、女性では 70 歳以上から胃癌検診を受けましょう”などと具体的な推奨が可能になる。さらに、本研究を通してベトナムの各地で検診が広まれば、ベトナムにおける胃癌早期発見やピロリ菌除菌治療の普及につながり、将来的な胃癌死亡抑制につながる。日本ではピロリ菌の除菌治療の普及から胃癌死抑制効果が見出されつつある。日本の胃癌検診をモデルとしてベトナムでも実行し、将来的な胃癌死亡抑制を目指す。

研究発表及び特許取得報告について

課題番号：29指6

研究課題名：ベトナムにおける生活習慣病の保健システムの強化

主任研究者名：松下 由実

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
該当なし				

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
該当なし				

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
該当なし				

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
該当なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。

※主任研究者が班全員分の内容を記載のこ